

士別市まちづくり懇談会（多寄地区） いただいたご意見

■日時：令和7年8月1日 午後6時から

■会場：多寄研修センター大研修室

■市参加者：渡辺市長、大橋総務部長、三上市民部長、東川健康福祉部長、坂本経済部長、藪中建設環境部長、丸生涯学習部長、池田経営管理部長、増田企画課長、久光企画課管理監、萩田企画課副長、企画課職員

■市民参加人数：19人

（1）総合計画の基本的な考え方について【資料1】

■ご意見1

- ・高齢者が買い物や病院へ行くための公共交通が非常に少ない。以前、乗り合い交通の実証実験があったが、その後進展がないように感じる。新しい計画の中で、高齢者の交通手段を確保すべきだ。

■回答1

- ・過去の実証実験は利用者が伸び悩んだ。現在は定時定路線のバスに戻っているが、便数が不十分なのは認識している。今年度策定する交通計画において、アンケート調査などで需要を把握し、今後の交通のあり方を検討していく。

（2）持続的なまちづくりについて【資料2】

■ご意見1

- ・市の資料には「単に財政が厳しいからという考えではない」とあるが、説明を聞くと結局は財政を理由に廃止案を押し切ろうとしているようにしか聞こえない。言っていることとやっていることが合っていない。

■回答1

- ・押し切るという考えは全くない。将来世代に負担を残さないために、今やるべきことを覚悟を持って提案している。あくまで協議を重ね、双方の納得の上で進めたいと考えており、決定事項ではない。

■ご意見 2

- ・カーリング場のように利用者団体と「継続協議中」であるにもかかわらず、資料に「廃止」と記載するのは市の姿勢と矛盾し、不安を煽る。「協議中」と正直に書くべきだ。

■回答 2

- ・資料の表現で誤解を招いたのであれば、工夫を検討する。市の当初の考えを示す意図で記載したが、協議を継続していることに変わりはない。

■ご意見 3

- ・カーリング場を「第1期計画」で廃止案として扱うのはなぜか。市の説明する「管理棟や機械の老朽化」は、競技を行う上で直接的な理由にはならない。これらは間接的な理由であり、廃止の根拠としては弱い。

■回答 3

- ・第1期で提案したのは、設備の更新時期が迫っており、先送りにすると故障のリスクがあるためだ。いただいた意見は、継続している協議の中で踏まえ、資料の作り方も含めて検討していく。

■ご意見 4

- ・市の普通交付税の伸び率が他市町村より低いのはなぜか。また、なぜ財政的に有利な「辺地対策事業債」を活用せず「過疎債」ばかりなのか。市の進め方は理屈はわかるが、市民に夢がない。

■回答 4

- ・「辺地対策事業債」は、本市において事業計画がないため活用できない。

■ご意見 5

- ・提案されている施設を廃止・休止しなかった場合、市民の財政負担はどのくらい増えるのか。

■回答 5

- ・市の試算では、計画通りに公共施設を削減しない場合、将来的に年間の施設管理費が約7.5億円不足すると見込んでいる。

■ご意見 6

- ・農家の戸数が減っても農地は残る。機械の大型化に対応するため、道路や排水路など農業関連のインフラ投資は継続すべきだ。

■回答 6

- ・農業従事者を減らさないことが重要と認識しており、現場の皆様と対話しながら必要な支援策を講じていきたいと考えている。

■ご意見 7

- ・小学生の交流事業は、オンラインだけでなくリアルな体験が子どもの成長に不可欠。「子育て日本一」をうたう市として、力を入れるべきだ。

■回答 7

- ・リアルな交流の重要性は認識している。その上で、子どもたちの負担なども考慮し、より多くの交流機会を作る方法としてオンライン活用を協議している。

■ご意見 8

- ・施設の改修費用など、具体的な数字を示さずに「老朽化」だけで説明されても納得できない。また、総合型スポーツクラブとの協議回数が実態と異なり、誤解を招く。

■回答 8

- ・市が示した回数は、他の関係団体との協議を含めた回数である。指摘は今後の参考にする。